

令和4年度 西東京市立向台小学校 学校評価報告書

学校教育目標 ◎よく考える子(問題解決力、思考力・判断力、表現力の育成)、◎健康な子(自己の健康・生活を見つめる力の育成)、◎思いやりのある子(人間関係形成力の育成)、○進んでやりぬく子(困難な課題に向かう力の育成)

目指す学校像(ビジョン)
 【目指す学校像】 緑いっぱい 子供たちの笑顔があふれる学校
 【目指す児童像】 構想力を身につけ、深く考えることができる児童、自他を尊重し、共生の意識をもつことができる児童、規則正しく生活し、心と体を健康に保つことができる児童
 【目指す教師像】 教育公務員として「チーム向台」を常に意識し、確実に職責を果たせる教師

前年度までの学校経営上の成果と課題
 【成果】全教員は、授業改善推進プランを活用し、目指す児童像に向けた授業改善の取組を行うことができました。※全教員がICT機器を効果的に活用し、目指す児童像の具現化に努めた。
 【課題】授業改善に向け、教員同士で意見交換・協議等を日常的に行い、高め合うなどの組織的風土の構築及び、授業改善の取組内容の確実な向上

	具体的方策	自己評価 5段階		分析・改善方策	学校関係者評価	次年度の重点・方針
		取組目標	達成目標			
確かな学力	①「学習・生活のきまり」を生かした指導の徹底及び充実 ②家庭学習の習慣化及び、「向台タイム」等での基礎的学習の充実	4	3	①②学校は、「学習・生活のきまり」に書かれている観点を活用した指導を確実に実施した。また、「向台タイム」では、全児童に「ライズeライブラリ」等を用いた補充学習等を実施し、基礎学力向上に努めた。第6学年の「東京ベーシック・ドリル」の診断テストの平均正答率は12Pアップした。 ▶学力低層層に対する支援の充実 ③教員は「授業改善推進MYプラン」等を基に、学校経営方針に示す授業の具現化に努めた。11月の調査では75%の児童は、その指導から期待される行動をとることができたと回答。7月から8ポイント減少した。11%は「分からない」と回答したことが影響したと考える。 ▶今後タブレット等を積極的に活用するなどし、学び合いを活性化	○児童が大変落ち着いて勉強している。取組の成果が出ている。 ○校内環境も整っている。体育袋が廊下に落ちていない。 ○教室環境も整っている。ユニバーサルデザインの考え方に基づき、すっきりしている。 ○タブレット端末の活用については、学校と家庭で適切な扱い方について指導を続けてほしい。 ○2年生がタブレット端末を上手に使用していた。大したものである。また、デジタル教科書も使用しながら、効果的に指導している。タブレット端末の効果的な活用について、今後も検討し続けてほしい。	【規律正しい学習の充実】 年度当初に、全学級において「学習・生活のきまり」を生かした指導の確実な徹底を図る。また、定期的なきまりの遵守を振り返らせるなどして、継続的に意識を高める。教室環境・廊下環境も整え、学びの安定を促進する環境づくりに努める。 【基礎学力定着の徹底】 「ライズeライブラリ」「東京ベーシック・ドリル」、ミム教材等を活用した学習支援を行う。また、各教科の年間指導計画等に、「ライズeライブラリ」を活用した学習支援を位置付ける。 【授業改善】 全教員が作成・活用する「授業改善推進MYプラン」にICT活用も位置付け、学
	③学習指導要領の趣旨を踏まえた1単位時間の授業展開及び、「授業改善推進MYプラン」を活用した、教員の授業改善	3	3	④道徳授業地区公開講座の場や道徳の評価方法に係るOJTで、管理職及び道徳教育推進教師が各教員に指導・助言し、「特別の教科道徳」に係る授業力の向上に努めた。教員の自己評価でも全員が「考え、議論する」道徳に合う授業実践に努めたと回答。 ▶教員の、「考え、議論する」道徳に資する授業実践の継続 ⑤「あいさつ運動」(年3回)、各学年における体験的な活動の実施を通して、心の醸成を図った。児童会は、挨拶、廊下歩行等本校の課題解決に向けた取組を行ったが1割の児童が自ら挨拶を、2割の児童が正しい廊下歩行ができなかったと回答。 ▶学校の課題等に児童自らが解決策等を考え、実践する取組の充実(継続)	○道徳の評価については、全校で共通理解し、児童にとって意義ある評価をしてほしい。	【挨拶の励行】 学期に1回の「あいさつ週間」と「生活見直し週間」を通して、児童の挨拶の定着に向けた取組を徹底していく。特に、児童アンケート項目「進んで挨拶している。また、心がけている」に対して、否定的評価をした10%弱の児童への働きかけを徹底していく。また、「特別の教科 道徳」の内容項目「礼儀」とも関連させながら、学校教育活動全体で取り組み、豊かな人間性の醸成を図る。 【道徳教育の充実】 道徳の評価については、道徳教育推進教師から毎年研修を行い、共通理解と質の向上を図る。
豊かな人間性	④別業を用いて各教科等の関連を図りながら実施する、道徳科授業35時間の確実な実施	3	3	⑥⑦学校は、コーディネーショントレーニングを取り入れた体育授業を全学級で実施した。第5学年でダブルダッチ教室を実施した。演技発表会でも学習したダブルダッチを取り入れた演目に取り組みなど、学びの充実を図った。 ▶校内研究等で得た成果及び課題、講師の指導等を踏まえた、体育授業の変革(全学級)	○コロナ禍は運動不足が懸念される。その中でコーディネーショントレーニングの取組は素晴らしい。今後は、この取組をどうつなげていくかが大切である。また、このトレーニングへのモチベーションをどうもたせていくかを検討してほしい。 ○コーディネーショントレーニングの効果を定量的に測定しており、説得力のある取組と言える。	【体育科授業の充実】 今年度の校内研究(体育科)を通して得た知見及び課題を踏まえて、全教員が日常の体育授業を実施できるよう、年度当初に体育授業のスタンダードについて、全教員で確認する。特に、ICT機器及びコーディネーション・トレーニングの活用には学級差があることを踏まえ、活用の徹底を図り、児童の運動能力等を効果的に高める。 【体育的活動の充実】 運動に進んで取り組むことが習慣化するよう、短時間で持久力の向上を図ることができる縄跳び(短縄、長縄、ダブルダッチ)の取組を学期に1回行う。
	⑤地域、近隣校等協働による「あいさつ運動」、児童会のリーダーシップによる主体的な取組(挨拶週間、廊下歩行週間)、動植物愛護等活動	4	3	⑧学校は、感染対策を講じながら、取組を確実に行った。運動に係るアンケートに肯定的評価であった児童の割合は8割強であった。 ▶否定的評価を行った児童、運動を苦手とする児童に焦点を当てた取組の改善	○教職員一同が「いじめは絶対に起こさせない」という強い気持ちをもって取り組んでほしい。被害児童は一生心に傷を負う。 ○SNSとの付き合い方を考える指導をしてほしい。見えないところで起こるいじめについても対応を検討してほしい。 ○児童が困ったときに、何でも相談しやすい体制をつくってほしい。また、担任の先生に相談したとき、求めている内容でない回答もあつたと聞いている。相談体制の充実をぜひ図ってほしい。	【いじめに係る取組の充実】 児童の意識調査では、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」に対する肯定的回答の割合を100%にするため、児童会活動による主体的な取組を一層充実させる。また、アンケートに否定的評価を行った児童には、担任から理由等の聞き取りを行い、改めるべき考えは指導等するなどし、否定的評価の底上げを目指す。学級活動等でも、いじめをしてはいけない理由を考させると、いじめ防止をテーマに、児童自らが考える学習の充実を図る。 【教育相談体制の充実】 児童及び保護者が学校に相談しやすい体制づくりを再検討する。特に、保護者が何でも相談しやすい環境整備と、相談者に寄り添った対応を重点として取り組む。
総合的な体力	⑥コーディネーショントレーニング等校内研究と関連する体育授業の実施 ⑦ダブルダッチ等縄跳びによる体力向上の取組	4	3	⑨学校は、毎月の人権研修に加え、冊子「使命を全うする」を用いた服務事故防止研修(1学期実施)、「ふくむニュースレター」等による定期的な研修を通じて、教員の服務事故防止に対する意識高揚を図った。教員の自己評価でも全員が「あつたか先生」の趣旨に沿った行動をとることができたと回答。	○先生方には、業務の目標設定をし、その達成を通して、自己肯定感を高めてほしい。TO DOリストは業務の見える化につながるが、終わっていない部分が明確になるデメリットもある。活用の仕方を検討してほしい。 ○重点の取組を鋭意進め、教員が魅力ある職となるよう、尽力いただきたい。	【働き方改革の充実】 【重点1】TO DOリスト等を用いた業務の見える化と、取組を通じた達成感の獲得 【重点2】担任業務軽減に向けた、副担任制度の取組の充実 【重点3】校務分掌組織各部の目標設定と、目標達成に向けた取組の精選化 【重点4】教科担任制を見据えた、一部教科の交換授業
	⑧教育活動全体で取り組む、「なわとび月間」「マラソン月間」等業間の時間を活用した体育の実施	4	3	⑩⑪いじめ防止リーフレットを作成し、全学級でいじめ防止に係る指導を行った。児童アンケート「いじめはどんな理由があってもいけない」で、7%の児童が否定的回答をした。また、家庭向けリーフレットを作成・配布したが、3割の保護者が取組を認知していなかった。 ▶いじめ防止等に係る取組は、年度当初の保護者会等での確実な周知及びいじめ防止等に係る取組の学校便り等での発信		
健全育成(いじめ防止)	⑩「いじめ防止リーフレット」を活用した授業等の実施 ⑪「いじめ防止リーフレット」を活用した保護者への啓発	4	4	⑫学校は、⑩～⑬の内容を確実に実施し、勤務時間の管理を行った。また、⑭⑮の取組を鋭意行った。その結果、約2割の教員の月あたりの時間外勤務45時間以内に収まった。学校業務全体のスリム化及び業務の標準化も進んでいる。教員の時間外勤務削減に対する意識し、改善を図ろうとしている。 ▶負担感軽減の取組の一層の充実 【重点1】TO DOリスト等を用いた業務の見える化 【重点2】担任業務軽減に向けた、副担任制度の取組の充実 【重点3】校務分掌組織各部の目標設定と、目標達成に向けた取組の精選化		
	⑫学年主任による退勤時間の管理 ⑬教員による、業務の見直し・改善の提案	4	2	⑭⑮校務分掌毎の組織目標設定と、目標達成に向けた取組の精選化(削減、縮小)⑯副担任制度の質的向上(事務作業、児童対応等の分担)		
業務改善・働き方改革	⑭校務分掌毎の組織目標設定と、目標達成に向けた取組の精選化(削減、縮小)⑯副担任制度の質的向上(事務作業、児童対応等の分担)	4	4			